

学校法人 早稲田大学

2019年度事業計画



2019年3月

C o n t e n t s

- 1 世界で輝くWASEDAをめざして
- 3 Waseda Vision 150 Next Stageへ
- 5 Waseda Vision 150
—数値目標の進捗状況
- 7 研究の早稲田
- 9 教育の早稲田
- 11 貢献の早稲田
- 13 附属校・芸術学校・系属校
- 15 早稲田大学理事会
- 17 社会人教育

Waseda Vision 150 Next Stage 世界で輝く



日本のトップユニバーシティから、世界のトップユニバーシティへ。そのために私たちは、その決意と覚悟を共有しなければなりません。

私は、『世界で輝くWASEDA』の創造を掲げて、2018年11月に早稲田大学第17代総長に就任いたしました。

鎌田前総長が2013年より推し進めてきた“Waseda Vision 150”の取り組みを継承し、選択と集中によって、2032年の創立150周年までに早稲田大学のあるべき姿をめざすとともに、グローバルユニバーシティ実現に向けてさらなる進化を果たさなければなりません。

私は、早稲田大学卒業後、10年余にわたりアメリカに留学し、世界トップクラスの教育を体感してきました。現在世界のトップに君臨するアメリカの大学も、ヨーロッパのトップ大学に追いつき、追い越すためには40年以上の歳月を必要としたのです。

『世界で輝くWASEDA』を実現するために、私たちは50年先を見据えたグランド・デザインを、まさに今構築せねばなりません。

私たちは、世界の発展に有意義な研究を行い、これを教育に還元し、進んで世界に貢献する志を持った学生を育てていく決意です。

ぜひとも、私たちの取り組みにご理解を賜り、一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

早稲田大学総長 田中 愛治

WASEDAをめざして

新しい早稲田のグランド・デザイン



◆Waseda Vision 150 Next Stageへ

創立150周年の節目である2032年のあるべき大学の姿を思い描き、そのために何をなすべきかを定めた中長期計画である、Waseda Vision 150の枠組みを活用し、これをNext Stageへと昇華させていきます。これまで、Waseda Vision 150によりさまざまな改革を実行してきましたが、ただ数値目標を追い求めるのではなく、その数値目標に込められた真に実現すべき姿を今一度見直す作業を行い、数値目標についても見直すべきものがあれば見直していきます。

また、Waseda Vision 150は幅広い分野での大学の在り方を取り上げていることから、より実効性を上げていくために、プライオリティーを明確にして進めていきます。

◆3つの柱

「研究の早稲田」「教育の早稲田」「貢献の早稲田」を3つの柱に据え、世界で輝く早稲田を目指します(概要は7～12ページ)。

この土台には、「たくましい知性」と「しなやかな感性」を学生にしっかりと身に付けて欲しいという思いが込められています。そのためにも、それぞれを育み、涵養することができる研究・教育環境を整備していきます。

◆価値観の共有

世界トップクラスの大学になるという決意と覚悟を関係者一同で共有していきます。

Waseda Vision 150 Next Stageへ

概要

早稲田大学では、これまでも「21世紀の教育研究ブランドデザイン」(2001-2007:グローバルユニバーシティの実現)「Waseda Next 125」(2008-2012:「早稲田」から「WASEDA」へ)といった中長期計画を策定し、実践

教 旨

学問の独立
—在野精神—

学問の活用
—進取の精神—

模範国民の造就
—地球市民の育成—

Vision

1

【基軸】人間力・洞察力を備えたグローバルリーダーの育成
世界に貢献する高い志を持った学生

2

【基軸】未来をイノベートする独創的研究の推進
世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する研究

3

【基軸】校友・地域との生涯にわたる連携の強化
グローバルリーダーとして社会を支える卒業生

4

【基軸】進化する大学の仕組みの創設
アジアの大学のモデルとなる進化する大学

教育・研究
Vision

大学経営
Vision

してきました。

この方向性を踏襲しつつ、創立150周年を迎える2032年の大学のあるべき姿をイメージし、**アジアのリーディングユニバーシティ**として確固たる地位を築くため、

向こう5-10年間でなすべきことを「Waseda Vision 150」として2012年11月に策定し、検証と改善を繰り返しながら、不断の改革を実行しています。

核心戦略・プロジェクト

13の核心戦略と45のプロジェクトにより構成

①入試制度の抜本的改革

- ◆多様で優秀な学生獲得のための方策の検討と推進

②グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築

- ◆教育システム改革
- ◆人間的力量の増進
- ◆奨学金制度設計
- ◆教育制度改革
- ◆社会人教育プログラムの拡充

③教育と学修内容の公開

- ◆教育方法の革新と学生の主体的・能動的な学びを支える情報基盤構築
- ◆「Good Practice」の整理および普及・展開
- ◆授業におけるTA制度の活用・授業形式見直し

④対話型、問題発見・解決型教育への移行

- ◆科目数削減、密度の高い教育の推進

⑤大学の教育・研究への積極的な学生参画の推進

- ◆学生参画の仕組み創設

⑥早稲田らしさと誇りの醸成をめざして—早稲田文化の推進

- ◆文化・芸術の推進とキャンパスからの文化発信
- ◆地域との連携による文化発信と施設の有効活用
- ◆早稲田大学百五十年史編纂
- ◆早稲田スポーツの新たな展開
- ◆早稲田らしさと誇りの探求
- ◆ワセダ演劇の発信力強化
- ◆村上春樹氏からの寄贈・寄託を契機とした研究拠点の設立

⑦独創的研究の推進と国際発信力の強化

- ◆研究人材の育成・強化
- ◆世界と伍する研究拠点の創出
- ◆研究力強化に向けた研究環境の整備

⑧世界のWASEDAとしての国際展開

- ◆海外拠点の役割の明確化と、その活用

- ◆海外留学促進
- ◆留学生受入促進

⑨新たな教育・研究分野への挑戦

- ◆健康・医療分野検討
- ◆分野連携検討

⑩教職員の役割と評価の明確化

- ◆教員と職員の役割の明確化と教員の評価基準の明確化、諸制度改革
- ◆人材育成
- ◆業務構造改革
- ◆業務プロセス最適化・ガバナンス改革のための業務システム再構築

⑪財務体質の強化

- ◆予算編成の在り方
- ◆あるべき学費体系の検討
- ◆常時資金獲得体制の構築
- ◆校友会費の恒常的確保のための校友会認知度拡大
- ◆収益拡大支援

⑫進化する大学の仕組みの創設

- ◆学術院体制検討
- ◆事業評価制度・新規事業立案の構築
- ◆戦略的広報の推進
- ◆大学ガバナンス検討

⑬早稲田を核とする新たなコミュニティの形成

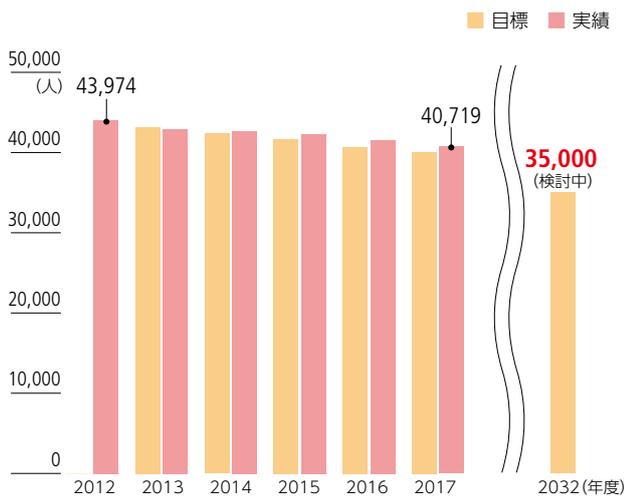
- ◆新たなコミュニティ形成のための基盤施設整備
- ◆課外活動等の場の充実
- ◆教育・研究・大学経営・社会貢献における校友連携
- ◆多様なコミュニティ形成のためのコミュニケーション・コラボレーション環境の実現
- ◆男女共同参画・ダイバーシティの推進

(2019年1月現在)

Waseda Vision 150

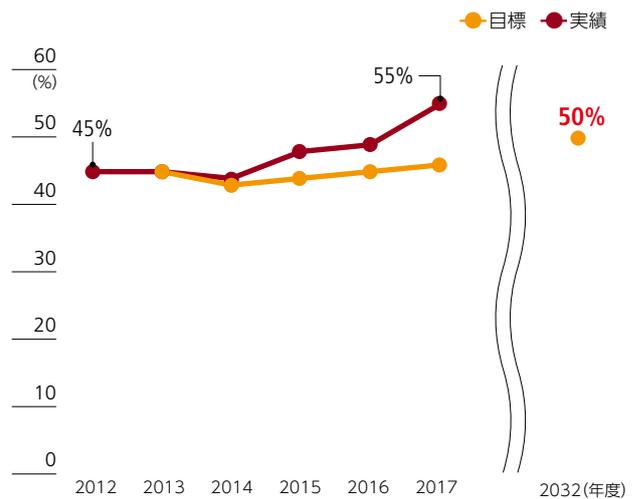
主な数値目標の進捗状況

◆ 学部学生数



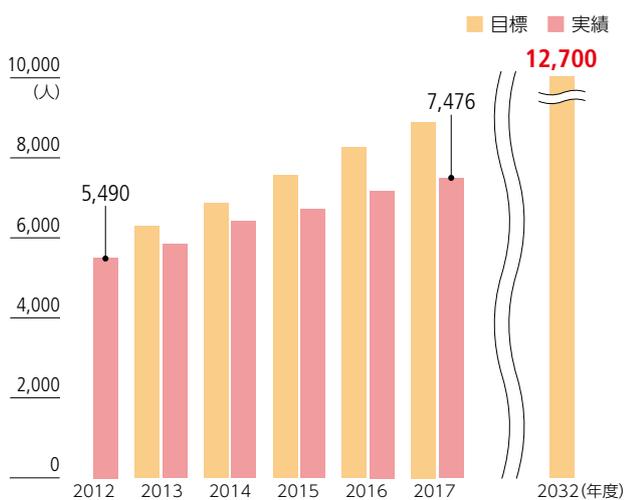
学部学生数を学則定員まで減じ
教育の質向上を図る

◆ 20名以下の授業割合(学部)



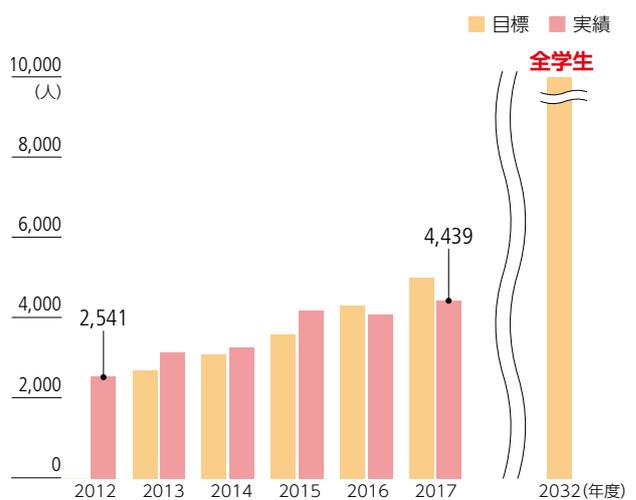
大人数の講義から、少人数による密度のより濃い
議論中心の課題発見・解決型授業へと移行

◆ 受入留学生数(年度通算)



高等教育・研究に関する国際的環境の変化に
対応し、グローバルな教室環境を実現する

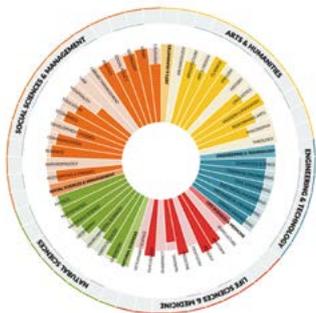
◆ 派遣留学生数



国際通用性を高めるため、卒業までにすべての
日本育ちの学生が海外で何らかの学習機会を経験する

数値目標は、それ自体が主目的ではなく、達成状況を分かりやすく示し、自己点検をするために設定しています。2032年の数値目標については、現在一部見直しの検討を進めています。

◆ QS* Rankings by Subject 2019



* 英国の大学評価機関である Quacquarelli Symonds 社の略称

● 11分野で世界100位以内 (前年8分野)

- Classics & Ancient History (34)
- Engineering - Mineral & Mining (40)
- Modern Languages (42)
- Sports-related Subjects (42)
- Politics & International Studies (46)
- Architecture / Built Environment (51-100)
- English Language & Literature (51-100)
- Linguistics (51-100)
- Performing Arts (51-100)
- Business & Management Studies (51-100)
- Sociology (51-100)

● 世界200位以内では、25分野がランクイン

研究力が世界的に高く評価されていることに加えて
本学の有する研究力の総合性も高く評価される

◆ QS* Graduate Employability Rankings 2019

EMPLOYER REPUTATION AND ALUMNI OUTCOMES
The following chart presents the results in the Employer Reputation and Alumni Outcomes indicators, highlighting the institution's performance in the global context. The closer to the top-right area an university is the better the performance in both metrics.

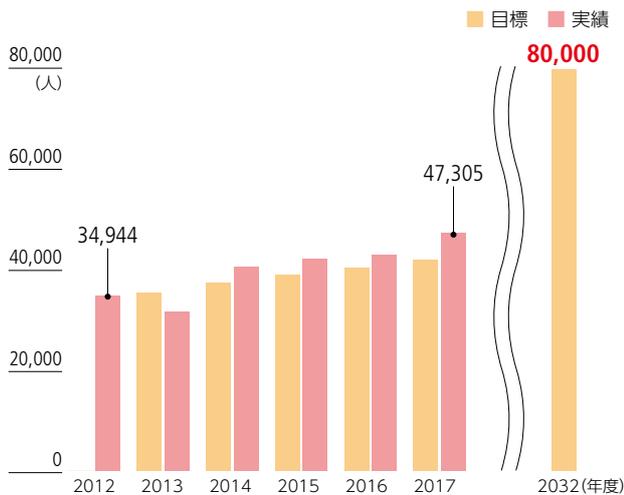


- 2019年版は、世界約660の大学が評価対象
- 世界27位、アジア7位、国内2位 (私大1位)

- Employer Reputation: 雇用者による評価
- Alumni Outcomes: 卒業生の活躍
- Partnerships with Employers: 主要企業との共同研究実績
- Employer-Student Connections: 企業などの学内採用活動
- Graduate Employment Rate: 就職率

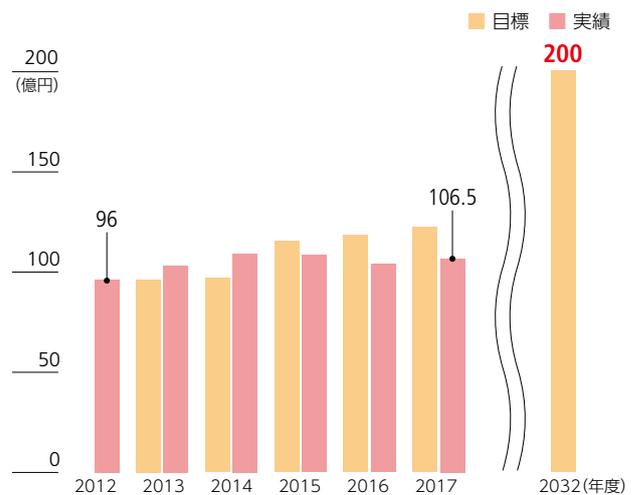
Waseda Vision 150に沿ったさまざまな取り組みが
主として卒業生の活躍を通して客観的に評価される

◆ 社会人教育



リカレント教育の拡充と多様性をはかり
教育上の社会貢献を行う

◆ 受入研究費



外部研究資金を獲得し、研究事業を
自立的に推進する体制を構築する

研究の早稲田 —Waseda Research—

世界レベルの研究を早稲田で行うために

世界中の優秀な研究者が、本学の研究者と国際的に意義のある優れた研究を本学で行うことができれば、研究成果を学生に教育として享受させることが可能になり、教育と研究の相互作用が起こります。

このような活動をより活発化させるためには、

教員の採用や組織の在り方の抜本的な見直しも含めた環境整備が必要です。

これまでに講じてきたさまざまな施策も踏まえつつ、2019年度は以下のような取り組みを進めます。



テニュアトラック研究員の研究成果・計画報告会の様子

◆若手教員採用時の公募制度、テニュアトラック制度の活用

優れた研究を行い、優秀な学生を育てるには、優秀な教員を獲得する必要があります。現在の自分たちよりも優れた研究力と教育力のある教員、あるいは今後自分を追い越すであろう才能ある人材を採用していくためには、広く一般に候補者を募る公募制度、採用後の業績を元に終身在職権の付与を判断するテニュアトラック制度を十分に活用する必要があります。

すでにこれらの制度を取り入れている学術院もありますが、特に若手教員の採用において、さらに広く活用していくために、基づく制度や条件整備についての検討を進めます。



「研究の事業化」に貢献するオープン・クローズ研究開発専用施設 新研究開発センター第I期

◆オープンイノベーション機構の整備事業

2018年度に採択された文部科学省「オープンイノベーション機構の整備事業」は、大学が企業と「組織対組織」での共同研究に取り組むために、企業の事業戦略に深く関わる大型共同研究を集中的にマネジメントする体制を大学に整備することをねらいとするものです。

本学は外部資金獲得により、学費収入に頼らず研究支援関係経費を賅う「研究の事業化」の実現に向けた取り組みを、これまでも進めてきました。一方、特に民間企業等からの受入研究費の獲得体制の強化が急務であり、同事業への採択を受け、本学のビジョンに基づく取り組みを加速化したいと考えています。

また、より効果的な研究推進体制の構築を目指して、学内組織体制の在り方も再検討します。



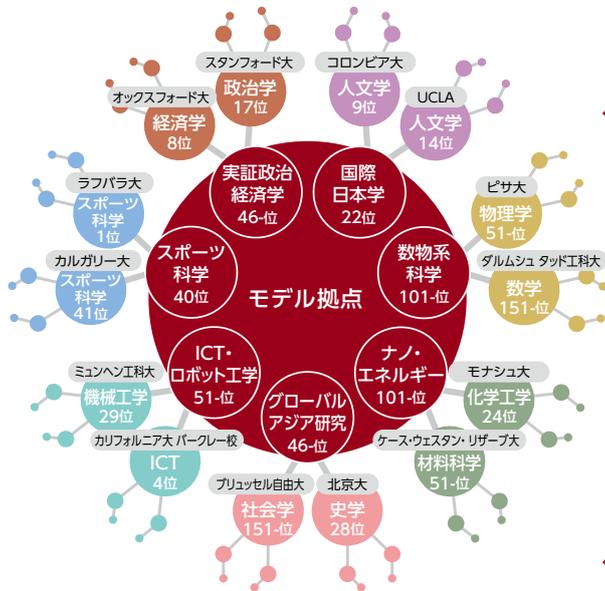
次代の中核研究者育成プログラム報告会の様子

◆次代の中核研究者育成プログラム

2015年度より開始した次代の中核研究者育成プログラムは、ベテランと若手研究者が連携したチーム型研究の推進と若手研究者への組織的なサポートにより、国際研究大学としての地位確立の担い手となる若手研究者を育成するための制度です。

次代の本学の中核となる研究者10名程度に対し集中的な研究支援・環境整備を行っています。すでにテレビや新聞、雑誌等で報道される大きな研究成果を挙げた研究者も出てきています。

引き続き本プログラムを運用するとともに、適用者以外の若手研究者へどのように波及させていくかという視点も含め、効果検証・見直しを行っていきます。



7拠点と世界有力大学とのネットワーク
 ※QS World Ranking by Subject 2018を基に作成

◆Waseda Vision 150を加速するWaseda Ocean構想

2014年度スーパーグローバル大学創成事業 (Type A) として採択された「Waseda Ocean構想」は、世界の先導的な大学とつながり、世界中の優れた研究・教育者と学生たちが自由に往来する早稲田大学の構築を目指しています。既に世界有力大学との共同研究を進めているモデル拠点として選定した7つの分野に引き続き集中投資を行い、それら拠点が主導する形で国際的な教育と研究を推進し、世界における本学のレピュテーションの向上を図ります。結果として、世界大学ランキングで100位以内にランクされる分野数の拡大につなげたいと考えています。

◆国際共同研究、産学連携の推進

世界レベルの研究を行うためには、学内にとどまらず、国内外の研究機関や産業界とも広く連携を行い、叡智や資金を結集していく必要があります。

一例として、昨年度本学ではすでに共同研究の戦略パートナーシップに合意済の英バーミンガム大学と、英国ESRC (経済社会研究会議) による研究基金を獲得し、労働力の不足という日英共通の重要課題への取り組みを本格化することとなりました。

また、2017年度に設置した「データ科学総合研究教育センター」では、民間企業 (みずほ銀行、CTC、ADK、日立製作所等) と学術交流協定に基づく産学連携を積極的に推進しており、共同研究の展開、インターンシップの実施、企業からのデータを解析するシステムの開発・構築を実施し、データサイエンス分野の研究力強化と人材育成に取り組んでいます。

引き続き、実社会の問題解決を促進する研究を実施し、社会や経済の発展に貢献していきます。



「早稲田大学におけるバーミンガム大学デー」でのシンポジウム

◆世界中の文学や翻訳研究者が集まる研究拠点

2018年、本学校友である作家の村上春樹氏が、自筆原稿や書簡、レコード等所蔵資料を本学に寄贈・寄託するとの記者会見を行いました。

世界50カ国以上で翻訳され読まれ続けている村上氏からの資料寄贈・寄託を契機として、既存の演劇博物館や国際日本学拠点の強みも生かしながら、さまざまな国との文化交流を促進し、村上文学をはじめとした国際文学研究者と愛好者が必ず訪れるべき研究拠点の設立に向けた準備を進めます。



村上春樹氏所蔵資料の寄贈・寄託と文学に関する国際的研究センター構想の記者発表

教育の早稲田 —Waseda Education—

「たくましい知性」と「しなやかな感性」を涵養する

「世界で輝くWASEDA」実現に向けて、世界で輝く学生を育てていきます。

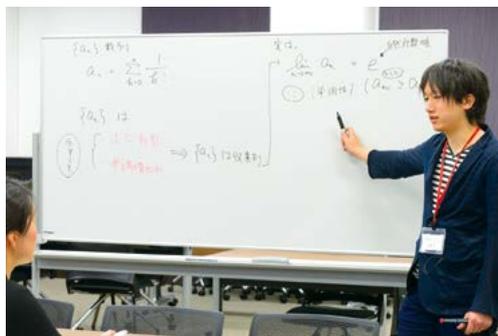
このために必要な「たくましい知性」と「しなやかな感性」の涵養に向けて、環境整備を実現していきます。



◆学部一般入試の改革

社会のさまざまな場において、現代社会の複雑化する課題解決に挑む、叡智・志・実行力を兼ね備えたグローバルリーダーを育成することは、「世界で輝くWASEDA」の根幹をなします。

これを実現するためには、入学後の学びに必要な資質・能力を求めると、本学が真に求める人材に入学してもらう必要があります。これは入学希望者が高校教育等で育成される「学力の3要素(十分な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)」を重視した入学者選抜の実施にも繋がります。特に2020年度からは現行のセンター試験から大学入学共通テストへ移行することが決定し、本学でも2021年度入試より、3学部(政治経済学部、国際教養学部、スポーツ科学部)が導入することを決定していますが、基礎学力の判定のみならず、各学部のアドミッションポリシー(入学者受入方針)に即した能力を有する人材を獲得できる入試制度の在り方について検討を進めます。



数学・統計科目履修支援窓口
Math and Stat Center (MSC)

◆基盤教育の整備と教養教育の提供

世界で輝く学生を育てるために、基盤教育(大学において学問を学ぶために必須で、社会に出ても知的な職業に就いた場合に必須のアカデミックツール)の整備と教養教育(物事の本質を見極める洞察力を育む教育)の提供を進めてきており、これを一層浸透させていきます。

①基盤教育の整備

主に大学1-2年生を対象として、これまでも「WASEDA式アカデミックリテラシー」としてTutorial Englishや数学的思考、さまざまな統計手法を学ぶデータ科学、情報科学、論文やレポート提出に求められる技能を学ぶアカデミック・ライティングを養成する基盤教育講座を提供してきています。2017年からは英文ライティングのルールを学びディスカッションを交えながら、論理的な英文を書く力の基礎を身につける「AWADE(Academic Writing and Discussion in English)」を開設しています。

②教養教育の提供

物事の本質を見極める洞察力を育むために必要なことは、学生が専攻する分野以外の学問分野の考え方やものの見方を習得することだと考えています。この考えに基づき、グローバルエデュケーションセンターでは2018年度に「学際的副専攻(複数の学問分野から考える)」と「学術的副専攻(異なるものの見方を学ぶ)」を整備しています。



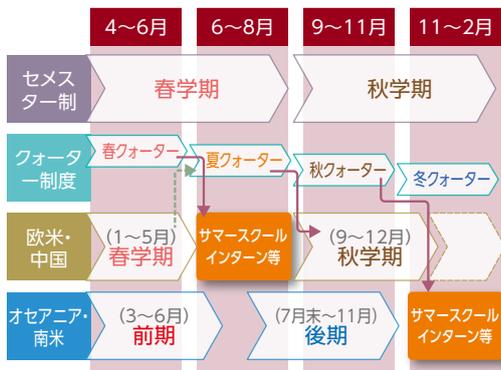
早稲田アリーナ内に設置されたラーニングcommons

◆主体的・能動的な学びの促進

これまでの大規模教室における一方通行型授業から、少人数・対話型、問題発見・解決型教育へ移行を進めてきており、本学ではすでに50%超が20名以下、80%超が50名以下の授業規模となっています。

また、学生の主体的・能動的な学習を支援するため、キャンパス各所にラーニングcommonsを開設しています。2019年3月に開所する早稲田アリーナ内にもラーニングcommonsを設置、また、2018年から段階的に進めていた中央図書館のラーニングcommonsエリアの拡大も完成し、新たな学習スペースとしての活用が始まっています。

2019年度も主体的・能動的な学びを促進させる取り組みを行っています。

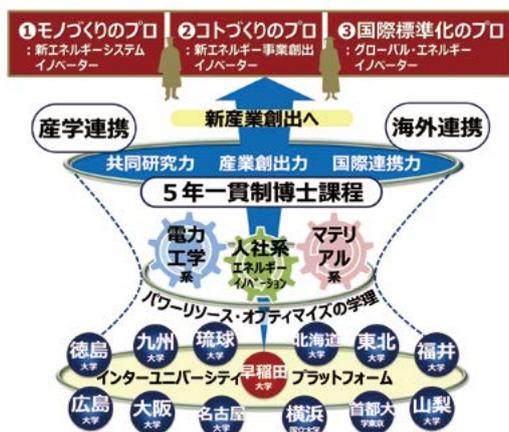


クォーター制

◆クォーター制(4学期制)の本格的な導入、カリキュラムの体系化

グローバルリーダーを育成するために、海外留学に行きたい時にに行ける・早稲田に留学したい時に来ることのできる環境整備を行っています。その1つとして、本学では2013年にアカデミックカレンダー(大学暦)のクォーター化を実施し、世界中のどのアカデミックカレンダーにも対応できる体制を整備しました。また、一部の学部・センターではカリキュラムのクォーター化を導入しており、さらに全学導入に向けて検討を進めていきます。

また、カリキュラムのクォーター化と同時に、カリキュラムを体系化し、学部・研究科で設置されている科目の履修順番や領域ごとの違いがより明確にわかるようコース・ナンバリングを用いることで、より効果的な学習環境を提供できるよう検討を進めていきます。



パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム概要

◆大学院の改革

Waseda Vision 150で目指すグローバルリーダーの育成のため、研究大学に相応しい大学院改革にも取り組んでいます。

2018年度には、電力・エネルギー分野と人文社会科学系分野との異分野融合により新たな研究成果や新産業創出を促進する高度博士人材育成のための「パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム(PEP育成プログラム)」が、文部科学省「卓越大学院プログラム」に私立大学では唯一採択されました。本学が中核となって国公立13大学と産業界が連携するプラットフォームにより、大学院教育の質や研究力を向上させ、未来社会に必要とされる高度な「知のプロフェッショナル」を輩出することで、本学全体の大学院改革を進めます。

貢献の早稲田 —Waseda Service—

人類社会に貢献する人材を育成する

「一身一家、一国の為のみならず。進んで世界に貢献する抱負が無ければならぬ。」

創設者・大隈重信は、創立30周年記念祝典において、

本学の教旨である「模範国民の造就」について、このように述べています。

貢献とは本学の建学の精神そのものです。

「たくましい知性」と「しなやかな感性」を持った、人類社会に貢献するグローバル人材を育成します。



早稲田ボランティアプロジェクト—海土プータンプロジェクト



プロフェッショナルズ・ワークショップ



リーダーシップ科目授業風景

◆人間的力量を育成する複数の教育プログラム

人間的力量とは、「社会」を学びの場とし、多様な価値観・文化的背景を持った人々との相互理解を通じて磨かれる力で、コミュニケーション力、問題解決力など、さまざまな力を含んでいます。本学では人間的力量を伸ばす多様なプログラムを実践的に提供しています。

・ボランティアを通じた教育

平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)では、ボランティア活動の機会提供・仲介のみならず、WAVOCの教員それぞれの専門性を生かし、その指導のもと活動するボランティアプロジェクトや、ボランティアなどの体験を自分の「コトバ」にする授業科目「体験の言語化」などのプログラムを提供しています。

・企業を学びの場とする教育

企業・団体等が実際に抱える問題を、グループワークなどを通じて解決に取り組む「プロフェッショナルズ・ワークショップ」や、インターンシップにおいても事前・事後学習により就業後の成果が高いレベルで期待できる「公認プログラムWIN」など単位取得も可能なプログラムを提供しています。

・リーダーシップ教育

グローバルエデュケーションセンターではleadership without authority(権限なきリーダーシップ)を習得する科目群を設置するほか、「自ら考え、自ら行動する」ことによって「生きる力」を育み、新しいコンセプトのリーダーシップを身につける授業「たくましい知性を鍛える」(大隈塾)を設置しています。

・仲間をつくる

「しなやかな感性」を養うには、仲間をつくることも必要です。自分の学生生活に少し疑問を感じている学生同士が、学部や学年の枠を越えてフラットに語り合う「fumidasuワークショップ」や、学生が主体となって新入生の悩みや不安を解消できるよう応援する「こっちはナビ」など、部活動やサークル活動なども含め、多種多様な機会があります。

人間的力量を育成するプログラムは、左頁の課題解決型学習 (Project-Based Learning) やプログラムの他にも、さまざまな機関が多種多様な展開をしています。これらの情報を集約し、体系化を図り、学生に提供することも重要であり、「みらい設計ガイドブック」という形で提供をしています。

さらに各プログラムの質の向上を図るとともに、それぞれのプログラムで得られる力や特徴を明らかにし、マップを整備するなど、多くの学生が参加するよう取り組んでいきます。



地域連携ワークショップでのフィールドワーク
(長野県木島平村)

◆地域連携の取り組み

地域との連携も重要な貢献の取り組みです。自治体や地域が抱える実際の地域課題について、地域で活躍している方々と学生が協働して解決に取り組む「地域連携ワークショップ」などを展開しています。2018年度に5つの学部が第一期生を迎え、2019年度からは新たに法学部も参加する「新思考入試(地域連携型)」による入学者も、これら地域連携型プログラムに参加します。

また、首都圏以外の国内高等学校出身者を対象とした入学前予約採用給付奨学金、「めざせ! 都の西北奨学金」も拡充しており、地方学生の負担軽減を図ります。



ボランティア・地域貢献プログラム(WAP)

◆スポーツへの取り組み

本学のアスリートを、将来世界のスポーツ界に貢献するリーダーとなるべく育成していきます。学生アスリートが学業と部活動を両立し、社会性と豊かな人間性を兼ね備えた人格形成を目指す「早稲田アスリートプログラム(WAP)」を通し、修学支援の他、ボランティア・地域貢献プログラムなどの取り組みを実施していきます。

また、東京オリンピック・パラリンピック開催の前年を迎え、本学キャンパスでキャンプや公式練習を行うチームへの対応を含めた学生ボランティア参加の推進や、ボランティア教育の実施など、さまざまな支援に取り組んでいきます。

附属校・芸術学校・系属校

早稲田大学高等学院

・留学機会と国際交流活動をさらに充実

留学期間を含む3年卒業制度利用生徒を含む年間留学生が10名を越え、約110名の短期を含む海外研修への派遣生徒および約140名にのぼる受け入れ海外高校生など、充実した国際交流機会が実現しています。さらに制度の円滑な運用を進めるとともに、留学支援と国際交流機会を拡充します(現在10校の海外協定締結校に加え第二外国語圏に新規協定校を開拓するとともに、英語圏の新規語学研修プログラムを開発し実施します)。

・自己決定として責任を負ったライフ・デザインを構想し、進路選択ができる施策を実践・拡充

ライフ・デザイン講演会、OBIによる進路講演会、「学部への招待」「学部WEEK」など日常の意識喚起活動を進めるとともに、各学院との連携をさらに強化し、高大接続の具体策(出前授業・学部講義の受講など)を実践・拡充します。

・突出した能力を発揮する生徒を育成するとともに、すべての生徒が切磋琢磨し合う能動的な学習主体となることを目指して、自ら学び、学びを進め深める学習環境の整備

新教育課程編成と合わせ、シラバスとカリキュラムのマネジメントを進めます。少人数クラスによる

「英語応用」の授業の実施、およびクラス分割によるアカデミック・プレゼンテーションに取り組む新規英語授業を開設します。企業・国際機関などと協働して社会にオープンな学習機会を拡充します(高校生向けインターンシップであるnendo留学など)。ラーニングコモンズの設置とTAの配置など自主的学習環境を充実させます。同窓会による学術研究奨励金などを活用した生徒の主体的な研究活動への支援と専門研究への誘いを進めます。



国際ドイツ語オリンピック2018
に日本代表として出場



生命科学分野の研究でノーベル賞受賞者
大隅義典教授の名を冠した大隅賞を受賞

早稲田大学本庄高等学院

・高大一貫教育とキャリア教育の充実

基礎学力と知的好奇心を備えた、グローバルリーダーとして世界に貢献する人材を育成するために、学部との教育活動の連携や情報交換を密にするとともに、キャリア教育をさらに充実させます。

・卒論指導の強化・カリキュラムの改善と学部推薦選抜制度の充実

2022年の新指導要領施行に向け、教育効果が高いカリキュラムを作るとともに、卒論を中心とした探究活動教育を強化し、多面的評価による学部推薦制度(G選抜)と授業や課外活動との、より有機的な連携を目指します。

・国際交流と地域連携の強化

スーパーサイエンスハイスクール活動やスーパーグローバルハイスクール活動で開拓した国際交流プログラムの可能性をさらに広げると同時に、長く継続している地域小中校や市民大学などへの文化貢献、本庄市内の環境保護活動を充実します。



本校主催国際高校生シンポジウムWaISEC



タイで開催されたThailand International
Science Fair 2019

・多様で資質の高い生徒を受け入れる環境の充実

全国・世界から多様な生徒を受け入れる環境は、早苗寮(男子)・梓寮(女子)の整備により充実しました。今後は、多様な文化的背景を持つ生徒たちにとってより魅力的な寮にするとともに、多様性を発揮できる学校づくりを目指します。

- ・新体育館が広げる本庄学院教育の可能性

2018年に起工した新体育館について、体育授業や部活動の充実、全生徒に対するイベント開催、地域に根差した施設運営を検討します。

早稲田大学芸術学校

- ・新カリキュラム「ASSEMBLE」—多彩で個性的な人材育成を目指して

芸術学校は2018年度、「建築とはすべての環境をデザインするもの」という考え方に立ち返り、「ASSEMBLE(アSEMBル=多様な領域を集合して組み立てる)」というカリキュラムポリシーを策定し新カリキュラムをスタートしました。2019年度はこの着実な運用と新たな展開を図ります。

- ・新カリキュラムの新たな展開—芸術・技術・理論の融合

新たな展開のキーワードに「テクノロジーデザインストラテジー=芸術・技術・理論の融合」を掲げ、AAデザインマトリックスの9つの教育テーマそれぞれに付帯する技術テーマを連動させていきます。

また、2学年と3学年にわたる連携科目について授業内容の連動化を図るとともに、強化すべき分野(保存再生等)において著名な実務家や研究者を登用し、さらに魅力ある授業を展開します。

- ・教育内容の拡充のための創造理工学部建築学科・同研究科建築学専攻との連携強化

高度建築家養成に向けた大学院進学希望者支援強化と特別聴講制度の活用を推進します。

- ・優秀な入学者確保のための学生募集活動の改善と強化

学内他箇所との連携、Webを基盤とした広報活動の充実、入試制度見直し等を推進します。

- ・建築文化への貢献を通じたブランド力強化への諸活動

建築関連団体等との連携体制構築、建築講演会や学外展示等の文化活動を推進します。



早稲田大学芸術学校 卒業設計・学生作品展2017
(新宿パークタワー1Fギャラリー)

系属校

早稲田大学には5つの系属校が設置されています。

系属校は経営母体は大学とは別の法人ですが、附属校同様、建学の精神に基づく
本学独自の「一貫教育」ならではの、特色ある教育カリキュラムを展開しています。



早稲田実業学校

共学・別学 男女共学
設置学校 初等部 中等部 高等部
所在地 〒185-0012
東京都分寺市本町1-2-1



早稲田中学・高等学校

共学・別学 男子校
設置学校 中学校 高等学校
所在地 〒162-8654
東京都新宿区馬場下町62



早稲田渋谷シンガポール校

共学・別学 男女共学
設置学校 普通科(高等学校)
所在地 57 West Coast Road,
SINGAPORE 127366



早稲田摂陵中学校・高等学校

共学・別学 男女共学
設置学校 中学校 高等学校
所在地 〒567-0051
大阪府茨木市宿久庄
7丁目20-1



早稲田佐賀中学校・高等学校

共学・別学 男女共学
設置学校 中学校 高等学校
所在地 〒847-0016
佐賀県唐津市東城内7-1

早稲田大学 理事会 2018年11月～

多彩なバックグラウンドの理事会役員

総長

田中 愛治



副総長(教務総括、人事
総括)

須賀 晃一



副総長(研究推進、情報
化推進)

笠原 博徳



- ◆ 早稲田大学政治経済学部卒業。The Ohio State University大学院政治学研究科博士課程修了、Ph.D.(政治学)取得
- ◆ 政治経済学術院教授等を経て現職
- ◆ 2014年7月～2016年7月 International Political Science Association会長

- ◆ 政治経済学術院教授
- ◆ 一橋大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科博士課程修了、博士(経済学)学位取得
- ◆ 政治経済学術院長、政治経済学部長、大学院経済学研究科長等歴任

- ◆ 理工学術院教授、産学官研究推進センター長(兼務)
- ◆ 早稲田大学理工学部卒業、同大学院理工学研究科博士課程修了、工学博士学位取得
- ◆ IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers) Computer Society会長(★北米以外出身初の会長)、アドバンスチップマルチプロセッサ研究所所長、アドバンスチップコアプロセッサ研究所所長等歴任

常任理事

常任理事(財務)

宮島 英昭



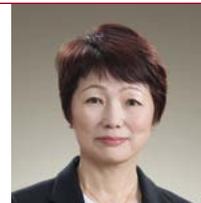
常任理事(募金、広報)

齋藤 美穂



常任理事
(職員人事、学内連携)

佐々木 ひとみ



- ◆ 商学学術院教授
- ◆ 立教大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科修士課程修了、東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得修了、早稲田大学より商学博士学位取得
- ◆ ファイナンス研究所所長、高等研究所所長等歴任

- ◆ 人間科学学術院教授
- ◆ 聖心女子大学文学部卒業、早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了、同博士課程単位取得退学、早稲田大学より博士(人間科学)学位取得
- ◆ 人間科学学術院長、人間科学部長、人間総合研究センター所長、理事等歴任
- ★女性教員初の理事・常任理事

- ◆ 総長室常勤参与
- ◆ 上智大学文学部卒業、筑波大学大学院教育研究科修士課程修了
- ◆ オープン教育センター事務長、国際教養学部・大学院国際コミュニケーション研究科事務長、広報室副室長、キャリアセンター長等歴任
- ★女性職員初の常任理事

理事

常任理事(経営総括)

長谷川 閑史



理事(入試、附属・系属)

松本 直樹



理事(国際、USJI)

弦間 正彦



- ◆ 武田薬品工業株式会社相談役、AGC株式会社社外取締役
- ◆ 早稲田大学政治経済学部卒業
- ◆ TAPファーマシューティカルズ(株)代表取締役社長、TAPホールディングス(株)代表取締役社長、武田薬品工業株式会社代表取締役社長、同取締役会長、東京電力株式会社(現 東京電力ホールディングス(株))社外取締役、経済同友会代表幹事等歴任

- ◆ 教育・総合科学学術院教授
- ◆ 早稲田大学第一文学部卒業、同大学院文学研究科修士課程修了、同博士課程退学、早稲田大学より博士(文学)学位取得
- ◆ 教育・総合科学学術院長、教育学部長、教職支援センター所長等歴任

- ◆ 社会科学総合学術院教授
- ◆ 東京農工大学農学部卒業、ミネソタ大学大学院博士課程修了、Ph.D. 取得
- ◆ 地域・地域間研究機構長等歴任

理事(学生、スポーツ振興、オリンピック・パラリンピック事業推進)

友添 秀則



- ◆ スポーツ科学学術院教授
- ◆ 筑波大学体育専門学群卒業、同大学院体育研究科修士課程修了、早稲田大学より博士(人間科学)学位取得
- ◆ スポーツ科学学術院長、スポーツ科学部長等歴任

理事(文化推進、地域連携、本庄プロジェクト)

渡邊 義浩



- ◆ 文学学術院教授、文化推進部長(兼務)、本庄プロジェクト推進室長(兼務)
- ◆ 筑波大学第一学群人文学類卒業、同大学院博士課程歴史・人類学研究科修了、文学博士学位取得

理事(法務、リスクコンプライアンス、人事労務)

甲斐 克則



- ◆ 法学学術院教授
- ◆ 九州大学法学部卒業、同大学院法学研究科博士課程単位取得退学、広島大学より博士(法学)学位取得
- ◆ 大学院法務研究科長、法務教育研究センター所長等歴任

理事(キャンパス企画)

後藤 春彦



- ◆ 理工学術院教授
- ◆ 早稲田大学理工学部卒業、同大学院理工学研究科博士課程修了、工学博士学位取得
- ◆ 創造理工学部長、大学院創造理工学研究科長等歴任

理事(国際広報、ダイバーシティ推進)

麻生 享志



- ◆ 国際学術院教授
- ◆ 慶應義塾大学文学部卒業、同大学院文学研究科修士課程修了、ニューヨーク州立大学バッファロー校大学院比較文学研究科博士課程修了、Ph.D.(比較文学)取得
- ◆ 大学院国際コミュニケーション研究科長等歴任

理事(総務)

佐藤 宏之



- ◆ 総務部長(兼務)
- ◆ 早稲田大学教育学部卒業
- ◆ 社会科学総合学術院事務長、キャンパス企画部長等歴任

理事(経営企画、関連会社)

井上 文人



- ◆ 総長室長(兼務)
- ◆ 早稲田大学社会科学部卒業
- ◆ 教務部事務部長、理工学術院統合事務・技術センター長等歴任

理事(校友連携)

萬代 晃



- ◆ 日本化薬株式会社相談役
- ◆ 早稲田大学校友会代表幹事
- ◆ 早稲田大学第一商学部卒業
- ◆ 日本化薬株式会社代表取締役社長等歴任

理事(国際[欧米])

フランシス・ローゼンブルース



- ◆ イェール大学教授
- ◆ バージニア大学政治外交学専攻卒業、コロンビア大学大学院政治学研究科博士課程修了、Ph.D.(政治学)取得
- ◆ アメリカ芸術科学アカデミー カウンシルメンバー、イェール大学副学長(教務・FD・ダイバーシティ担当)等歴任
- ★初の海外大学在籍理事

監事

監事(学校法人の業務・財産の状況の監査)

星 德行



- ◆ 弁護士、東京地方裁判所鑑定委員、東京都新宿区都市計画審議会委員等兼職
- ◆ 早稲田大学第一法学部卒業
- ◆ 日本弁護士連合会副会長、第一東京弁護士会会長、関東弁護士会連合会理事長、三菱レイヨン株式会社監査役等歴任

監事(学校法人の業務・財産の状況の監査)

島田 昌幸



- ◆ 株式会社テレビ東京ホールディングス特別顧問
- ◆ 早稲田大学第一政治経済学部卒業
- ◆ 株式会社日本経済新聞社常務取締役、株式会社テレビ東京代表取締役社長、同代表取締役会長、同相談役、株式会社テレビ東京ホールディングス代表取締役社長、同相談役等歴任

監事(学校法人の業務・財産の状況の監査)

佐藤 正典



- ◆ 公認会計士・税理士、原子力損害賠償・廃炉等支援機構監事、一般社団法人全銀協TIBOR運営機関理事、品川リファクトリーズ株式会社取締役監査等委員等兼職
- ◆ 早稲田大学商学部卒業
- ◆ 有限責任あずさ監査法人理事長、全国農業協同組合中央会理事・監査委員長等歴任

社会人教育

本学は、あらゆる世代の方が学ぶ「生涯学習機関」として、多様な学びを提供しています。

社会人が学び直す機会の拡充が期待されているなか、本学でも現代社会に適合した社会人教育を一層充実させ、誰もが生涯にわたっていつでも必要なことを学べるようにすることを目指し、一層の充実を図ります。

■ 大学院(正規課程)における社会人受け入れ体制

多くの大学院では、社会人入試や特別選考入試、AO入試など、社会人を対象とした入試を実施しています。また、社会人を対象としたコースを設けていたり、昼夜間開講制や夜間と土曜日昼間だけの受講で修了が可能な研究科があるなど、社会人の勤務を妨げることなく学べる配慮もなされています。さらに、1年間で修了できる短縮課程を設けている研究科もあります。

■ 学部(正規課程)における社会人受け入れ体制

人間科学部eスクール(通信教育課程)では多くの社会人学生が学んでいます。通学制の学部はすべて昼間課程ですが、政治経済学部とスポーツ科学部で社会人入試を実施しています。また、3年次からの入学制度として、多くの学部で「学士入学」、一部の学部・学科で、短期大学卒業生、高等専門学校卒業生等を対象とした「3年編入学」の制度があります。

■ 科目等履修制度による社会人受け入れ体制

大学への正規入学によらず、学部・大学院・グローバルエデュケーションセンター等の特定の科目を履修でき、要件を満たせば単位が認定される制度です。社会人に広く門戸を開く、主に専門分野修得の一事業として、多くの学部・研究科等で実施されており、オンデマンドで履修できる科目もあります。

また、この制度を利用して考古調査士の資格を取得することもできます。

■ 社会人を主な対象とした教育機関等

● “[何か]を変えたい。”そう考える人たちのまなびと交流の場 WASEDA NEO

2017年、日本橋キャンパスに開設されました。ビジネスで活用できる実践能力を、短期間で濃密に会得できるノンディグリーならではのプログラムを展開。研修プログラムは短期集中型で、社会人が参加しやすい最適な日数・時間帯で構成しています。

● ビジネス・ファイナンス研究センター

早稲田大学ビジネススクールと連携し、双方の教育・研究システムを一体化することで、ビジネス・ファイナンス分野の基礎的・応用的研究を通じて世界水準の研究成果を生産・発信し、教育の現場ならびに広く社会に還元することを目的としています。経営管理層の中核として活躍する企業人が抱える問題を克服するための知見を提供するエグゼクティブ教育を実施しています。

● エクステンションセンター

どなたでも学べる公開講座を年間約1,900講座設置。歴史・文学から現代社会まで幅広いラインナップで展開しています。早稲田、八丁堀、中野の3つの校舎があります。



WASEDA NEO コワーキングスペース



エクステンションセンター

他にも、さまざまなプログラムを展開しています。詳しくは、「早稲田大学 社会人入学案内」や、あらゆる世代の学びポータルサイト「早稲田大学まなびのコンパス」をはじめとする、各種webサイトをご覧ください。



早稲田大学教旨

1
学問の独立

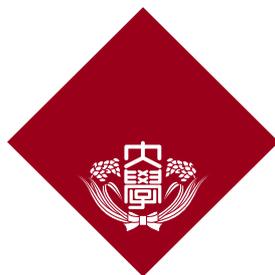
— 世界へ貢献する礎 —

2
学問の活用

— 世界へ貢献する道 —

3
模範国民の造就

— 世界へ貢献する人 —



学校法人 早稲田大学

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

本学の情報は下記のWebサイトでもご覧いただけます。

<https://www.waseda.jp/top/>